

施策・基本事業評価表

作成日 平成 23 年 5 月 18 日

基本目標No.	2	基本目標名	安全で快適な暮らしやすいまち
施策No.	15	施策名	良好な都市の形成
主管課名	都市計画課	主管課長名	森田 敏之
関係課名	農林水産課、商工観光課、建設課		

施策が目指すすがた	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な土地利用により、都市と自然が調和されたまちになっています。 ・道路や公園などが安全で快適な施設になっています。 ・街並みや景観などを美しいと感じるまちになっています。
-----------	---

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担や地域等への期待など	市・事業所	・身近な公園や自宅周辺の緑化に努めます。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・住民発意のまちづくりが進むよう情報提供に努めます。 ・安全で快適なまちづくりの整備促進に努めます。 ・地域特性を活かしたまちづくりを住民と連携・協働しながら推進していきます。
	その他	・地域のみなどと相談しながら、美しい街並みの保存に協力します。

施策の成果達成にあたっての現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地近郊地域では、民間業者の開発により分譲住宅や大型店舗が進出し農地と住宅地や商業地が混在しています。 ・沿岸部の一部地域では道路が非常に狭いため防災性や利便性が不足する地域であり、まちなか地域では魚津大火後に築造した防火建築帯が老朽化と共に空き店舗も多くなり、地域全体の人口減少も著しく進んでいます。 ・北陸新幹線の開業後は、魚津駅と電鉄魚津駅の乗客状況や駅周辺の土地利用形態も変わることが推測され、市内地域の適正な土地利用を図りながら、駅周辺整備を始めとした利便性や快適性の高い都市環境を築く必要があります。
--------------------	--

施策No.	15	施策名	良好な都市の形成
-------	----	-----	----------

基本事業名①		事業内容(活動内容)								
計画的な都市環境づくりの推進		都市計画マスタープランに示した基本方針に基づき、適正な土地利用や地域特性が生かされた都市環境づくりを推進します。								
①に属する代表的な事務事業		事業内容(活動内容)								
都市計画マスタープランの推進		平成18年度に作成した都市計画マスタープランに基づいて、ゾーン区分の都市づくりを推進します。								
都市計画区域の見直し事業		必要時点で都市計画区域の見直しを行ない、都市づくりの根幹的要素を整理します。								
地籍調査事業		土地の一筆毎の調査及び立会いを行ない、正確な地積測量図や登記簿を作成します。								
農業振興地域整備計画事業		農業の近代化に向けた必要な地域を保全し、農業振興に関する施策を計画的に推進します。								
基本事業①の目的【意図】		土地利用に関して、将来的な構想が明確であり使い易いものになっています。								
成果指標名	単位	21年度実績	目標値(上段)及び実績値(下段)						27年度(中間目標値)	32年度(最終目標値)
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度		
適正な土地利用が行なわれていると感じている市民の割合	%	28.4	24.4	25.5	26.6	27.7	28.8	30.0	35.0	
			24.4							
基本事業名②		事業内容(活動内容)								
市街地整備の推進		密集市街地を土地区画整理事業で安全な市街地に整備し、商店街や賑わいづくりに取り組みながら、魚津駅や電鉄魚津駅を含めた周辺整備を行ないます。								
②に属する代表的な事務事業		事業内容(活動内容)								
経田地区土地区画整理事業		旧市街地の経田地区で土地区画整理事業を行ない、安全な快適なまちに作り変えます。								
市街地活性化事業		従来からの商業振興策に加え、商店街の地域と協働して全体のグランドデザインの検討を行います。								
鉄道駅及び周辺整備計画策定事業		魚津市中心市街地活性化に向けて、市内鉄道駅の乗り換えの利便性や魚津駅及び電鉄魚津駅の形態変化に備えた周辺整備の計画を策定します。								
基本事業②の目的【意図】		便利で安全な地域が創出されています。								
成果指標名	単位	21年度実績	目標値(上段)及び実績値(下段)						27年度(中間目標値)	32年度(最終目標値)
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度		
土地区画整理事業面積	ha	163.5	165.1	165.5	165.9	166.3	166.7	167.0	168.5	
			165.1							
基本事業名③		事業内容(活動内容)								
美しい都市環境づくりの推進		市の玄関口である魚津駅前広場を整備することや建築基準並びに屋外広告物の適切な指導を行ないながら、きれいな街並みや美しい市街地を保持するための対策を進めます。								
③に属する代表的な事務事業		事業内容(活動内容)								
屋外広告物許可及び啓発事業		屋外広告物の設置に対して、良好な景観等に配慮した適正な指導や設置基準に基づいた許可を発行します。								
駅前広場等整備事業		市の玄関口である魚津駅前広場が、市民は基より来訪者からも好かれるように適切な整備を行ないます。								
公園里親制度事業		誰もが親しむ都市公園や開発広場を市民からボランティアを募り、草むしりや清掃等できれいに管理します。								
基本事業③の目的【意図】		誰もが美しい・きれいであると認識ができて、親しまれる環境が整っています。								
成果指標名	単位	21年度実績	目標値(上段)及び実績値(下段)						27年度(中間目標値)	32年度(最終目標値)
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度		
屋外広告物違反件数	件	47	44	41	38	35	32	30	20	
			46							
里親登録公園数	箇所	11	13	15	18	21	23	25	30	
			12							
基本事業名④		事業内容(活動内容)								
④に属する代表的な事務事業		事業内容(活動内容)								
基本事業④の目的【意図】										
成果指標名	単位	21年度実績	目標値(上段)及び実績値(下段)						27年度(中間目標値)	32年度(最終目標値)
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度		

施策の成果達成にあたって優先的に取り組むべき主な取組み

施策No.	15	施策名	良好な都市の形成
-------	----	-----	----------

22年度の 評価結果 (基本事業 の成果を考 慮し記載)	1. 施策(基本事業)の成果水準とその背景(近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること)
	ア. 成果水準の推移(成果水準がここ数年どのように推移しているかを中心に記述) ①適正な土地利用が行なわれていると感じている市民の割合が24.4%であり、前年度より4.0%低くなった。 ②抜本的な都市基盤の再生を図る土地区画整理事業は、経田地区で公共施行方式により進行中である。 ③平成19年度に創設した公園里親制度を利用し、身近な公園の簡易な美化行動(ゴミ拾い、草むしり)を行なう人達が出てきている。
	イ. 近隣他市との比較(成果水準が近隣他市と比較してどうであるかを中心に記述) ①住居、商業、工業など市街地の大枠としての土地利用を定める用途地域面積は、当市は430.5haであり、隣接の滑川市は670.82ha、黒部市は625.0haであり、隣接両市は当市よりも1.5倍ほど広い面積である。 ②当市の土地区画整理事業面積は165.1haであり、隣接の滑川市は159.2haであるが現在は実施してない。また、黒部市は69.1haであり、現在も施行中である。
	ウ. 住民期待水準との比較(成果水準が住民が期待していると思われる水準と比較してどうであるかを中心に記述) 適正な土地利用状況や都市基盤に対する市民意識調査では、両方共に前年度よりも低くなっている。 また、市街地にはゴミがなく、きれいと感じる人が54.5%と多いことや、山や海の眺望などの景観を生かしたまちづくりが、進んでいると回答した人は24.6%と前年度と同じ状況であった。
	2. 施策の成果実績に結びついているこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括 (ここ数年の間、施策及び基本事業の成果向上に貢献してきた主な事務事業の取組み内容を中心に記述) ①平成10年度に策定した魚津市中心市街地活性化基本計画に基づき、まちづくり総合整備事業や公園整備事業など中心市街地の機能更新、活性化に関する各種事業を平成20年度まで実施してきた。 ②住宅密集地の居住環境改善へ向けた取り組みとして、平成17年度から経田地区の区画整理事業に着手し、20年度から家屋移転工事や下水道並びに道路整備工事と本格的に開始した。 ③北陸新幹線の開業が近づき、平行在来線を踏まえた駅周辺の整備計画を検討を開始した。 ④従来からも屋外広告物の許可事務を行なっているが、平成18年に魚津駅東地区地区計画を設定したことに伴い、地区整備計画区域内では屋外広告物など行為の届出を義務化し、華美な看板等をつくらせないように規制している。
3. 施策の課題認識及び23年度の取り組み状況(予定) (22年度末で残った課題、既に23年度に取り組んでいること、又は取り組むこととしている予定を記述) ①については、平成10年度から中心市街地の活性化に向けて旧市街地領域を整備したが、魚津大火後に築造した中央通り・真成寺町の防火建築帯(個人資産)が著しく老朽化しているため、計画的な対策を進めていく必要がある。対象物が個人資産であり、当然のことながら住民発意の地域特性を生かした街づくりには、地区住民と連携・協働を図ることが基本である。 ②については、平成17年度から開始した経田中央地区3.5haの土地区画整理事業が本格的に動き出し、平成22年度までで約1.6haの整備が完了した。今後、残りの約1.9haを継続して取り組み平成27年度までに完了する予定である。 ③については、電鉄魚津駅を含めた周辺の整備計画策定に向けて関係機関と協議し、施行体制を整える予定である。 ④平成22年7月に富山県屋外広告物条例も改正されており、今後、更に良好な景観づくりの促進を図るための周知活動や指導等を行なう必要がある。	

部会評価 (協議結果、 今後の方針 及び課題等 について記 載)	※今後の施策の方向性※	維持
	市の都市将来像や土地利用の基本的な方針を明らかにし、その方針を遂行していくことで市民が住み易く、市に活力が育まれます。このことから、農地との調整を始めとして都市計画区域や用途区域の設定は重要な要素であり、土地利用状況や社会環境の変化に伴って見直しや変更が必要です。 また、住宅の位置する密集市街地や商店街は、整備された道路や公園等の都市計画施設が必要であり、特に公共交通の核となる魚津駅や電鉄魚津駅は、乗り換えの利便性を高めて周辺地域を含めたまちなか区域としての環境整備が求められています。 なお、公園や駅周辺の環境は、市民は基より来訪する観光客の誰もが美しいと感じられることが重要です。	

行政経営戦略会議指示事項	部会評価のとおり推進すること。
--------------	-----------------

施策の トータル コスト	区 分	単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度実績
	A. 本施策を構成する事務事業の数		本数					
B. 事業費(事務事業の事業費合計)		千円						
C. 事務事業に要する年間総時間		時間						
D. 人件費(C×1時間あたりの平均人件費)		千円	0	0				
E. トータルコスト(B+D)		千円	0	0				
効率性 指 標	対象(受益者)1単位あたり、若しくは市民1人あたりの施策の	円	0	0				
	F. 事業費(定義式: B/人口)							
	同上	円	0	0				
	G. 人件費(定義式: D/人口)							
	H. トータルコスト(定義式: E/人口)	円	0	0				